

令和5年度 研究推進計画

1 研究主題について

学校教育目標	高い志を持ち、夢の実現に向けてたくましく生きる児童の育成
研究主題	思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり ～TKFモデルを取り入れた授業づくり～
主題設定 について	<p>本校は、昨年度までの4年間、研究主題を『「思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり」～TKFモデルを取り入れた授業づくり～』とし、児童の思考過程（課題発見・解決・表現）や言語活動を明確にした授業づくりにより、学び合いを活性化させ、児童の「思考力」「判断力」「表現力」を高めるための研究を推進してきた。</p> <p>研究内容として、「創って (T) 語って (K) 振り返る (F)」という指導過程を設定し、児童の立ち止まりやズレを引き出し、語り合う場を設定することで児童が思考し、新しいものの見方・考え方を獲得する授業を目指してきた。この取組により、指導過程が明確になり、教材の特質に応じた課題発見解決学習に取り組むことができた。また、ブロック研修を充実させ、「何を創らせるのか (T)」「何を語らせるのか (K)」「何を書かせるのか (F)」を視点を教材研究を行い、発問や言語活動を工夫することで、付けたい力を明確にして授業に臨むことができた。振り返る (F) については、単元の最後に学習のまとめと共に書き、単元の学びについてのまとめと振り返りをし、評価した。さらに、全学年で「話し合いのコツ」指導に取り組み、お互いの考えを聞き合い、考えを深める児童の育成に取り組んだ。</p> <p>その結果、次の5点が成果として挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 三次市学力到達度検査において、国語科の結果、基礎も活用も全学年が全国平均を上回ることができた。基礎より活用の方が、正答率が高い。観点は、「知・技」「思・判・表」「態度」の全てが上位。解答形式は、「短答」「記述」が上位という結果だった。 ② 教材の特質や付けたい力や児童の思考の流れを意識した授業づくりができてきた。問い作りにチャレンジすることで、子どもの思考の流れに沿うような授業をするために何を考えていけばいいのかを考えることができた。TKFの良さを実感することができた。 ③ TKFの他教科版を考えることで、その本質を考えることができた。 ④ 話し合いのコツをバージョンアップすることで、話し合う (K) 場で、思考のツールとして使える児童が増えた。相手を意識したり理由をつけて自分の考えを述べたりする等、話し合い活動における児童の意欲が年間を通して向上した。また、自分の考えと友達の考えと比べながら聞いたり、友達と話し合うことで考えが深まったりした児童の割合が、1学期に比べ大幅に高くなった。また、毎回、単元の振り返り (F) の時間をとることで、活用する力につながった。 ⑤ ブロック研修により教材分析や授業研修の機会が増えた。その結果、様々な授業を見ることができ、TKFモデルを取り入れた授業づくりについての理解を深めた。また、次に自分が教材研究や授業をする時につなげて取り組むことができた。 <p>一方で、課題も残った。</p> <p>指導過程を明確にした授業改善に取り組んできたが、三次市学力到達度検査において、三次市平均を上回ったのは3学年であり、児童に十分な力が付いたとは言えない。また、児童アンケートの結果「自分から進んで学習課題やめあてに取り組んだ」と答えた児童は80%を超えているが「まったく」と回答した児童が5.7%程度いる。また、85→85.1→84.1%と結果的には、1学期より下がっており引き続き主体的に学ぶ児童の育成に取り組む必要がある。</p> <p>そこで、今年度は、昨年度の研究主題を継続し、TKFモデルを取り入れた授業づくりを深化することで、児童の学習に向かう主体性を高め、学びの道筋（課題解決）や自分の</p>

	<p>考えを表現する力を高めるとともに、思考力・表現力の育成を図る。その際、単元で付ける資質能力や指導事項を明確にし、児童の立ち止まりやズレを引き出すようなめあてや児童の考えを焦点化して深める発問を工夫する。また、教材の特質に応じた言語活動を設定し、児童の思考の流れに沿った授業展開を創る工夫を行う。それらのことを他教科にも広げていく。また、「話し合いのコツ」を児童の思考が深まるようにバージョンアップし、思考のツールとして年間通して使えるよう指導を継続する。発達段階に応じて、どのような話し合いの学習を仕組めばよいか研修を進めていく。また、問い作りに継続して取り組むことで、児童の問いが、教材の特質に迫るものになるようにしていく。</p> <p>自分から進んで学習課題やめあてに取り組むことができるように、家庭学習の充実を図る。そのことで、メタ認知能力の向上が期待できる。また、授業と家庭学習を連動させ、相乗効果が見られるようにする。</p>
<p>研究内容</p>	<p>課題発見・解決学習のカリキュラム実践・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○TKFモデルを取り入れた課題発見・解決学習による授業改善 <ul style="list-style-type: none"> ・「創る」ための工夫 ・「語る」ための工夫 ・「深める」ための焦点化 ・「振り返る」ための工夫 ○メタ認知を取り入れた家庭学習の意識改革
<p>研究方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1) 理論研修「課題発見・解決学習」、「TKFモデル」に関わる理論研修・共通理解 <ul style="list-style-type: none"> ・研究内容、目指す授業像の共通認識、単元構想や指導の工夫についての研修 (2) 授業研究 新たな単元の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・国語科「TKFモデルを取り入れた課題発見・解決学習」の授業提案 ・話し合いを活性化させるための授業提案 ・低・中・高、縦割り、教科ごとなどのブロック研修 (3) 外部講師招聘による研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招聘しての理論研修及び授業研修、ワークショップ、示範授業 (4) 先進校視察・研究会参加 <ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会で学んだ内容を全体へ還元 (5) 授業の基盤となる学級づくりについての研修 (6) i-check 等による児童一人一人の実態把握及び学級の状況把握 <ul style="list-style-type: none"> ・児童同士のつながりを深めるために i-check (年1回) を実施し、その結果に基づいた指導を工夫 ・個別支援計画を活用し、生活上・学習上の困難を克服するための継続した指導、支援 ・ソーシャルスキルトレーニング等を計画的に実施 (7) 小中一貫教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・各校の研究公開・校内授業研究への参加など、小中合同研修会の実施 ・十日市中学校区オリジナルカリキュラムに則った連携 (8) 家庭学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・系統的な家庭学習の取り組みを実施 ・児童の家庭学習の意識改革

検証の指標 及び 検証方法	<p>(1) 各種学力検査 全国学力・学習状況調査・・・全国平均を上回る。 三次市学力到達度検査（1月）・・・全学年全国平均を上回る。</p> <p>(2) 児童の表現物や「振り返り」等による見取り ・・・・B基準達成児童を80%以上にする。</p> <p>(3) 児童アンケート・・・各アンケート項目の肯定的評価を75%以上にする。 自分で学ぶ力をつけるために家庭学習に取り組んでいる児童を80%以上にする。</p> <p>(4) 学習意欲や自己肯定感, 学級の集団性を見取る i-check の実施・検証</p> <p>(5) 「授業についての自己チェックリスト」による定期的な教師の自己評価</p>
------------------------------	--

2 研究仮説と研究内容の具体

(1) 研究の仮説

TKFモデルを取り入れた思考過程（課題発見・語り合い・表現）を設定し言語活動を明確にした授業づくりにより、学び合いを活性化させれば、児童の「思考力」「判断力」「表現力」を高めることができるであろう。

《研究内容》

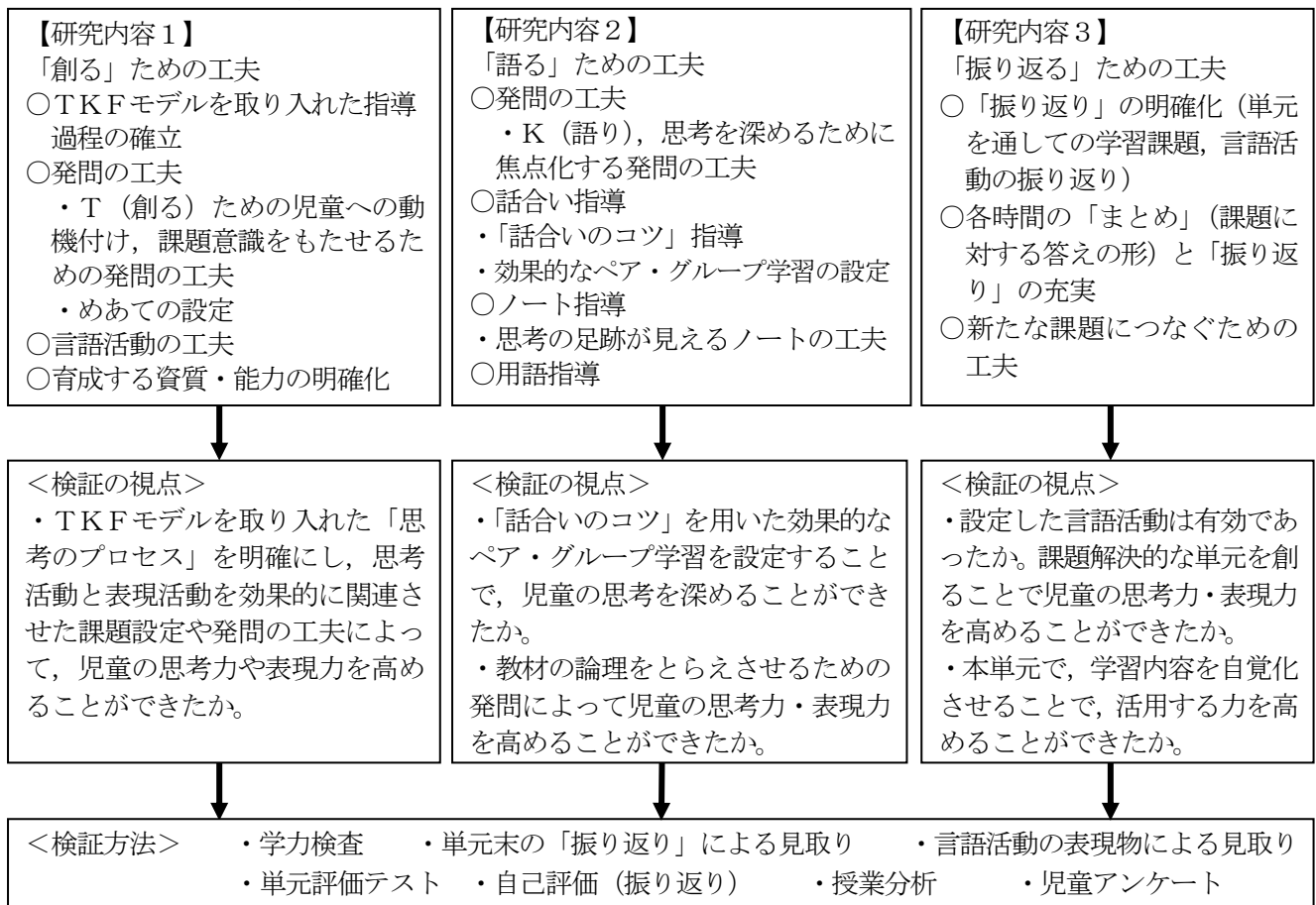
課題発見・解決学習のカリキュラム実践・改善

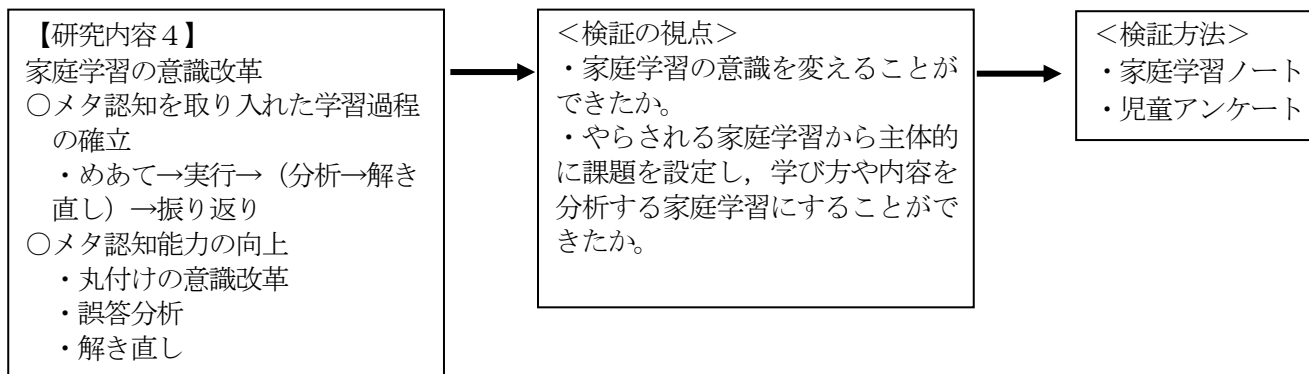
○TKFモデルを取り入れ、児童の思考の流れを重視した「思考のプロセス」（課題発見・解決・表現）を明確にした指導過程の工夫及び

- ・「創る」ための工夫
- ・「語る」ための工夫
- ・「深める」ための焦点化
- ・「振り返る」ための工夫

○メタ認知を取り入れた家庭学習の意識改革

(2) 研究内容及び検証の視点





(3) 研究内容の具体

【研究内容1】 TKFモデルを取り入れた指導過程の確立・・・「創る」ための工夫

- ① TKFモデルを取り入れた指導過程の確立
 単元または1時間の学習過程において「創って(T) 語って(K) 振り返る(F)」活動を取り入れた展開を工夫する。教材の特質に応じた言語活動を設定する。
- ② 発問の工夫・・・課題解決的な単元構想・めあての設定
 - 「10の観点読み」を取り入れ、自力で読む力を付ける。
 - TKFモデルを取り入れた指導過程により、児童の立ち止まりやズレを引き出すようなめあてや発問を設定し、解決していく授業展開を工夫する。*児童の思考の流れに沿った授業展開を創る
 - T(創る)ための児童への動機づけ課題意識をもたせるための発問の工夫
 - 場に応じて様々な発問を取り入れる。

- 限定発問(確認発問)・・・内容を確認させるためのもの。児童を共通の土俵にのせるためのもの。
- 解釈発問・・・文章や論理、表現技法から自分の解釈を加え、考えをもたせるためのもの。
- 判断発問・・・どちらが良いかどうすれば課題解決できるか判断を迫るもの。
- 評価発問・・・表現や論理、または人物の行動や結末に対する評価をうながすもの。また、考え方の良さを問うもの。
- 深化発問(ゆさぶり発問)・・・児童の思考をゆさぶり、既知の思考から新しい価値を見い出させるためのもの。(他のやり方はないか。視点を変えるとどうなるか。)等
- 方法発問・・・どのように考えれば課題解決できるかという方法や考え方を問うもの。

- ③ 教材の特質に応じた言語活動の設定・・・教材の特質や単元の目標に沿った言語活動を設定する。
 - 単元のゴールで何をどのように表現させるのかを明確にして単元を構成する。
 - 活用を意識した言語活動を設定する。
 - 単元を貫く問いを設定する。
 - *学習の目的意識を明確にし、それに向かう問いの設定を行う。
 - めあては疑問形にし、まとめはその答えになるようにする。
 - *「～だろうか。」「～は～か。」「AかBか。」という児童の思考を促す問いを創る。
 - *本時でとらえさせたい内容、付けたい力を「まとめ」として書かせる。
 - 「問い」を引き出すための教材研究をする。
 - *教材の特質をふまえ、指導事項や付けたい力を明確にする。
 - 指導者の切り返し
 - ア 根拠をもたせるための切り返し
 - イ 広げるための切り返し
 - ウ 深めるための切り返し
- ④ 育成する資質・能力の明確化

【研究内容2】 TKFモデルを取り入れた指導過程の確立・・・「語る」ための工夫

① K（語る）思考を深めるための発問の工夫

○教材の論理を考えるための「深める発問」の工夫（「S」焦点化の工夫）

② 話し合い指導

○「話し合いのコツ」指導・課題解決のための討論の仕方を指導する。

○役割を明確にしたグループ活動を設定する。

○思考を深めるために話し合いをレベルアップするための文字化資料を作成・指導する。

☆[話し合いのコツ]

学習用語（例）	定義	発言例
展開	別の展開への進行を促す。	「・・・について話そうか。」
まとめ	出た意見をまとめる。論点を整理する。	「ちょっとまとめるね。」 「まとめると・・・だね。」 「だから・・・だよね。」
戻し	話題を戻す。	「さっきの話だけど・・・」 「もとにもどそうよ。」「ずれていない？」
振り／パス	友だちの意見を求める。相手の発言を促す。	「〇〇さんはどう？」 「意見はある？」
反論	理由をはっきりして反論する。反対意見を述べる。	「でも・・・。」 「それは・・・じゃない？」
お尋ね	理由を尋ねる。	「なんで？」 「どうして？」
確かめ	相手の意見を確かめる。発言内容を確認する。	「・・・ってことだよね。」 「・・・でいい？」 「どういうこと？」
受け／受け入れ	友だちの意見を受け止める。	「いいね。」 「あー。」 「そうそう。」 「わかる。」 「そうだね。」
アイデア	意見を提案する。（選択肢を出す）	「・・・はどう？」 「それとも・・・は？」 「・・・がいいんじゃない？」
つけたし	友だちの意見に付け加える。	「つけたすと・・・。」 「それに、・・・」
理由の説明	意見の理由を述べる。	「だって、・・・」 「・・・だから。」
言い換え	別の言葉に言い換える。	「それって・・・だよね。」
反応	話しやすくあいづちをする。	「うん。」
笑い	雰囲気や和ませユーモアなど。	

③ ノート指導

○課題解決のための思考の足跡が見えるノートの工夫（書く活動の設定）

- ・基本的なノートの使い方を徹底（十日市小学校ノート指導資料参照）
- ・ノートの活用・・・1時間の学習の足跡，児童の思考の流れが残るノートを工夫する。
- ・十日市小学校区オリジナルカリキュラムに基づくノートづくりの推進
- ・自主学习ノートの充実
- ・ノート評価の交流

④ 用語や言語表現を意識した活用

○指導内容を明確にする。

○教科の用語や学び方の方法を指導し活用させる。また、「学習の足跡」として児童にまとめさせ、振り返りができるようにする。

○学習した内容を掲示し、螺旋的に力を付けていく。

【研究内容3】 TKFモデルを取り入れた指導過程の確立・・・「振り返る」ための工夫

① TKFの「F」を、単元の最後に学習のまとめと共に書く振り返りのこととし、付けたい力に関わる児童の学びを表現させる。

* 「この学習で付いた力は～」 「この学習課題で学習したことは～」 「この方法で学習したことは～」 等と単元での学びについてまとめと振り返りをする。→評価

② 各時間のまとめは、学習課題・単元を貫く問いに対する答えの形でまとめさせる

(例) この説明文にぴったりな文章構成図は？

→この説明文にぴったりな文章構成図は～。それは～

(例) この説明文の納得度は〇〇パーセント？

→この説明文の納得度は〇〇パーセントです。それは～

(例) 物語を表す図はどうか？

→この物語を図で表すと～。

(例) 物語を1文で表すと？

→「〇〇が△△によって□□になるお話」

(例) 〇〇はどんなお手紙を書いたのだろうか？

→〇〇が書いたお手紙は「～ 　　　　　　」です。」

③ 新たな課題につなぐための工夫

次の課題発見へつなげるための工夫・・・「だったら〇〇はどうなるの？」

【研究内容4】 家庭学習の意識改革

① メタ認知を取り入れた学習過程の確立

〇めあて→実行→(分析→解き直し)→振り返りのパターンを習慣化し、どの課題にもこのパターンを当てはめる。

②メタ認知能力の向上

〇丸付けの意識改革を行う。

- ・正しく丸付けができる力を付ける。
- ・間違いは、学力を伸ばすチャンスだという意識を醸成する。
- ・後で見直した時に分かるように赤で直す習慣を付ける。

〇誤答分析

- ・算数の場合、間違えた問題は、なぜ間違えたのかが分かるように間違えた個所にメモをする。
- ・ドリル等に間違えた問題が後で分かるようにチェックしておく。

〇解き直し

- ・チェックした問題をもう一度解き、採点する。

〇振り返り

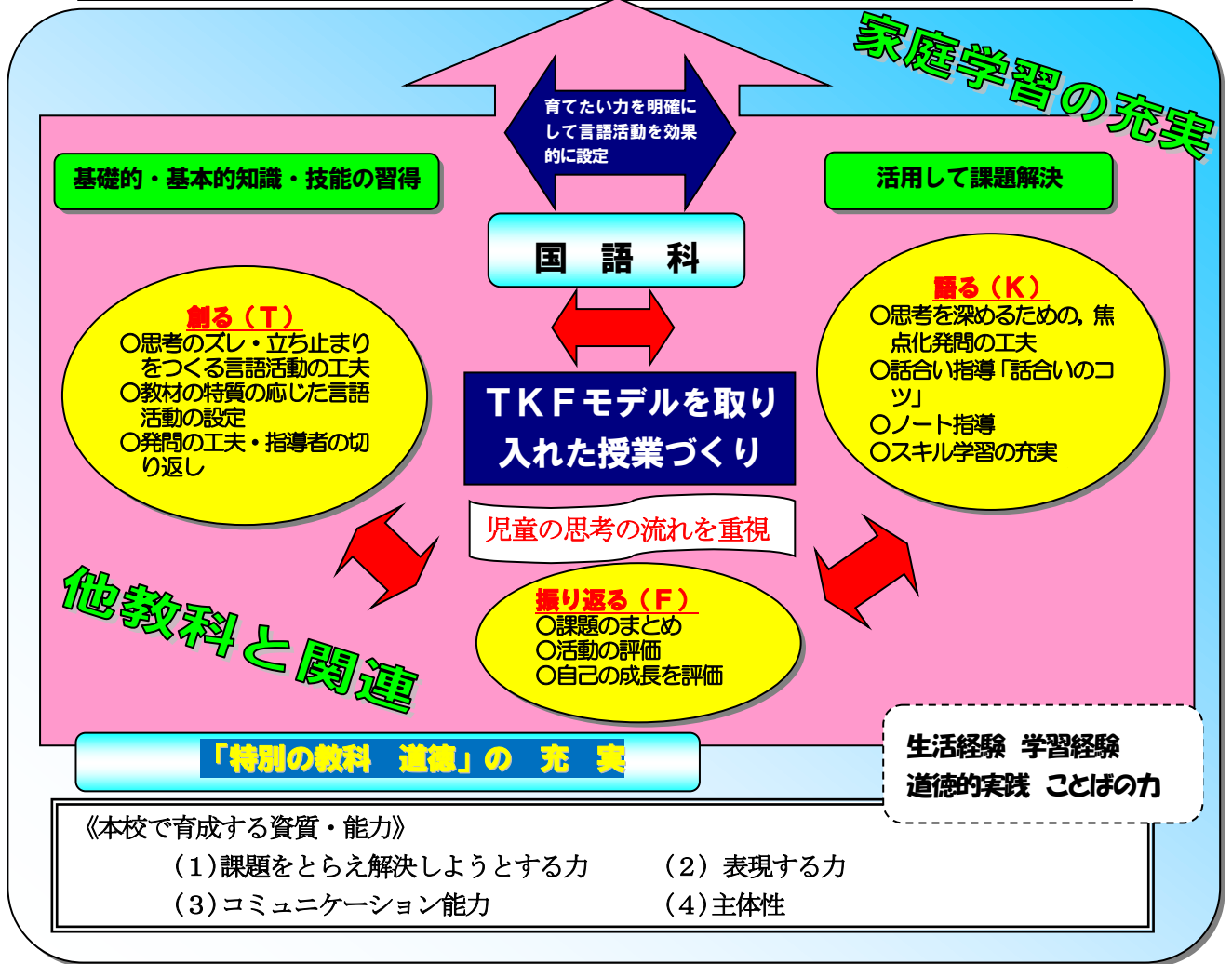
- ・全体を通して、自分は何が得意で何が不得意なのか分かったことを書く。

(例) 小数のあまりのあるわり算では、あまりにも小数点をつけることを理解できていなかったことがわかった。

高い志を持ち、夢の実現に向けてたくましく生きる児童の育成

思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり ～TKFモデルを取り入れた授業づくり～

目指す児童像 「主体的に考え、自分のことばで表現することができる児童」



自己指導能力の獲得を支える生徒指導の実践上の視点

- (1) 自己存在感を与える (指導者と児童をつなぐ)
- (2) 共感的人間関係を育成する (児童と児童, 指導者と児童をつなぐ)
- (3) 自己決定の場を与える (課題と児童をつなぐ)
- (4) 安全・安心な風土の醸成 (児童と児童をつなぐ, 指導者と児童をつなぐ, 課題と児童をつなぐ)

学級経営

- (1) 安心感と学びの機会を保障する規律の重視
- (2) 承認し合う学級づくり
- (3) 教室環境づくりの工夫